



エエー！

各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第16号

2016年 9月 5日

400年と10万年！

関東大震災を記憶に留める為の防災の日、9月1日。法人組織でも緊急連絡網を使用して伝達訓練をしました。その日の夕刊にエエーという小さな記事が載りました。

「原発を管理する電力会社に原子炉の制御棒等は400年管理を！その後は国が10万年管理する。原子力規制委員会発表」

冗談でもないし、落語の突拍子も無い話ではありません。8月31日に出された環境省の外局である「原子力規制委員会」の公式見解の内容です。

この委員会の委員には委員長の原子炉工学者田中俊一氏をはじめ、工学者、地震学者放射線医学者、外交官等のその道の権威者ばかりで構成されています。この委員会の出自は東日本大震災で発生した福島原発の事故を教訓に発足し、原子力行政に重要な役割を持つ組織となっています。そして見解の内容を付け加えれば、放射能レベルの高い原子炉関連の廃棄物を保管する場所は、地震や噴火、がけ崩れなど災害に遭わない土地で深さ70メートル以上の地中に管理して置くというもの。

原子力発電施設は日本では50年ほど前から建設されてきて、計画中も含めると約50ヶ所あり、現在稼働中は3基。世界には300以上の原子炉が動いており、設置数では最大はアメリカの99基、第2位はフランス、3位が日本となっています。あの広大な面積の中国には30基で第4位です。

ウクライナのチェイノブイリの原発事故の反省が有りながらも、地球上では安全で、環境に負荷を与えないエネルギー装置という名のもとに創設の一途を辿ってきました。

その過程の上に東日本大震災で露呈した福島の東電原発の爆発があるのです。プルトニウムの半減期が10万年と物理学上の制約から来ているのですが、400年前は江戸初期徳川秀忠の時代、今残っている組織では住友金属鉱山、養命酒、松坂屋等ぐらいいで原子力発電施設を所有する現電力会社は存在し続けるのでしょうか。不思議な話です。また、「10万年後」とは、人類の祖先ホモサピエンスさえ6万年前ですから、人類が地球上に存在し得ているか、更には地球があるかも疑わしいところです。

持続可能な地球社会をどう維持でき続けるかを考えていかななくてはなりません。老婆心ながら！

以 上